

～ 自分の世界に没頭して遊ぶ、まなざし ～

絵の具と筆、画用紙を置き、やり方の指示はなく始めました。

子ども達は紙に絵の具を塗り、色が混ざるのを見つめます。  
絵の具に手を浸して、何かを感じています。  
床や机のビニールに描いてみて、何かを発見し  
「はっ」と息をのみます。絵の具が弾く様子を見つめています。

色のついた澱粉のりを出すと、おそろおそろ触ってみます。  
手の平に塗ってあげると、何とも言えない表情をして、そこから  
感触に入り込み、腕や足に塗りはじめます。  
絵の具とのりを混ぜて画面に塗り続けています。  
絵の具を容器から移し替えることに、没頭する人もいます。  
足が滑る事や、ボールがくるくる回る事に遊びを見つけていきます。  
それぞれが自分のやりたい事に没頭する、静かな時間でした。

興味を持ち、どうなるのか？と問いを立て、想定し、確かめていく。  
起きる事を探求しています。まさに体験しながら学ぶ姿です。  
そのまなざしは真剣で、自分の世界に入っているかのようです。

大人の声掛けを少くしたことで、自分なりの遊びに集中していった。  
自分は何をやりたいか、それには何が必要か、自分で考えていた。  
大人の見守る視線があることで、安心して冒険できた。  
大人達も、その子が何を感じているか、観る余裕が生まれた。

子ども達の力を信じて、先回りせず、やりたい事を満たしてあげると  
無理なく次の活動に移っていけるのかもしれない。

遊び方の決まっていない、自由度の高い遊びをたくさんする事で  
自分なりの感じる心＝感性が育つでしょう。それは  
自分はどうしたいのか、主体的に生きる力の根となるはずです。

